

太吾上人高井善證師の兩生祠

文學博士 加藤 玄智

僧侶の生祠と聞くと、一寸變に響かないでも無い。佛教の坊さんがどうして、神に祀られたのかと。そこが、日本では、神佛の兩者が、永い間握手してをつて、その間密接の關係が出来、神棚と佛壇とが、同じ一軒の家に、仲良く暮してをつたからである。佛教の坊さんだつて、矢張日本人だから日本の神に祀られる所以がある。僧侶の生祠で著名なのは、埼玉縣上尾町にその生祠碑の今尙建つてをる雲室上人の生祠の事である。それは余が曩に著した『本邦生祠の研究』中にも述べておいたから、今爰には再び贅せぬが、今回新に、静岡市麻機あまはたの知人から、同地方に、修驗僧高井善證師（天保七年二四九六正月七日生—明治四十一年二五六八十一月二十一日歿）即ち、太吾上人又は日正様の生祠があることを報じ來つたので、遂に余は昭和十一年二五九六十一月七日に、同地方に出張して、該生祠に詣拜し、之を實査することとなつた。此行、静岡市麻機の智徳院（京都醍醐三寶院配下）の現住職高井善證師（太吾上人の法嗣）及び牛窪弘善師の高配に浴したことが多かつた。先づ茲に以上兩師の好意を深謝する。

静岡市麻機には、太吾上人の木像を祀つた僧房智徳院(明治二十九年(二五五六)以前は光明院と稱す)が今尙嚴存してをつて、その住職は、今日尙太吾上人と同じく、高井善證を襲名してをり、今現に京都



静岡縣清水市駒越太吾上人高井善證生祠
(昭和二十年一月寫) 高井神社

醍醐三寶院の傳法學院の教授である。同師の案内で、余は先づ静岡縣安倍郡清澤村寺島の太吾上人の生祠に詣でた。此生祠は太吾上人がまだ、静岡市音羽町に在る清水公園の清水寺の先々住高橋典海大阿闍梨(明治十七年(二五四四)遷化、行年六十七歳)に就いて得度して僧籍に入つた前のものである。故に此生祠内の石像は俗形であつて僧形で無い。當時は高井太吾橋と呼んでをつた。該生祠は今俗に寺島の行者様と呼ばれ、村社二柱神社(白鬚神及び櫛毛神)の境内入口、目下山本克己氏所有の小岡の山腹に建つてをる。太吾上人即ち太吾橋は幼少の頃から、天狗小僧の綽名があつた位、不思議な靈能を具へてをつた人で、

祈禱に由つて難病を治癒した如き枚擧に違ない程である。本年八十一歳の同村古老永野藤之助氏の語る所に據れば、明治十四年(二五四一)の頃、太吾橋が、祈禱で同地の癩病患者を治癒した功力を讃へて、此石像を造つて祀つたさうである。頭髮を分け、羽織を着した坐像である。癩病祈禱當時の御姿そのままだと云はれてをる。太吾橋時に年四十六歳であつたと云ふ。而てその信仰は、今日尙依然として、同地方に旺んであつて、村民の行者様即ち太吾上人の石像に詣拜する者多く、香華今に絶えぬのである。

太吾上人第二の生祠は、静岡縣清水市駒越こまこえに在る村社駒越神社の境内社高井神社である。御神體は鏡で、高井善證教授の記憶では、明治十四年(二五四一)頃里民は當時猖獗の悪疫の爲め、太吾上人に懇願して祈禱せしめた。その結果、悪疫は終熄した。其靈驗は喧傳した。遂に明治三十一年(二五五八)の頃、太吾上人を祭神とした高井神社を建てたのである。上人時に年六十四歳で、此時は既に出家してをられたのである。今日の高井神社は昭和六年(二五九一)十月に改築して以て今日に至つたものであるが、今日尙村民の太吾上人に對する信仰は盛んなものであつて、高井神社の參拜者は、絡繹として迹を絶たない。是れ實に駒越に於ける、修驗太吾上人の生祠の成立縁起である。以上は書き物では無いが口碑の儘に記述すれば、此の通りである。

余は高井神社即ち太吾上人の生祠實査の際、明治三十一年(二五五八)八月駒越地方に悪疫流行の際、そ

の時智徳院 (明治二十九年^(二五五六)_(二八九六)以前は光明院と稱した由、傳法學院教授高井善證師は語られた) と記した所の同寺の住侶高井善證師即ち太吾上人の祈禱札が、今日現に駒越の高井神社内に存してをる。その祈禱札は左の通りである。

太吾上人高井善證師祈禱符

唯一佛道行夏火生三昧

村中安全 麻機村

奉修大火祭御祈禱配帙

某主

守護

修行焚揚圓滿作之成就

惡疫消除 智徳院

(表)

(裏)

明治三十一年

八月十八日

(村民歸依者名列記)

太吾上人高井善證師祈禱符

(表)

唯一佛道行夏 柴燈護摩
 奉祈念降魔退散柴燈護摩供 某主
 是故汝等焚揚 作之成就
 家内安全 病災消除
 智徳院 守護 麻機村

(裏)

靜岡縣 安倍郡 靜岡村
 不二見
 駒越
 明治四十一年四月十四日

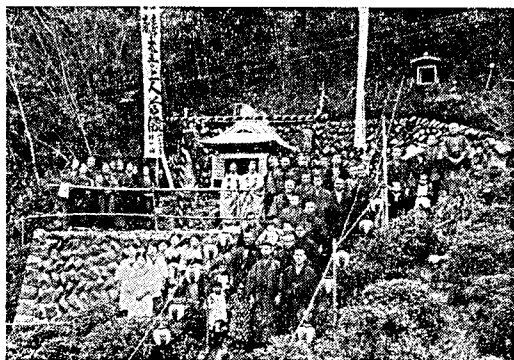
以上二生祠は、その設立年代が極めて新しいものであるから、其設立に關係した人々も尚以上の兩村に生存してゐるので、生きた文獻として、其直話に徴し、以て余は其生祠たることを認容するものである。尚以上二生祠の外に、靜岡縣安倍郡玉川村桂山に在る桂山神社も、成立當初は太吾神社と稱し、後ち

明治四十年（二五六七）頃、桂山神社と改稱したので、是れ又太吾上人の惡疫流行祈禱の靈驗の徳に感動して、村民が之を建立したもので、どうも生祠であらうと、智徳院の現住職高井善證師は云はれてゐるが、確實なることは他日實査の結果に待ちたいと思ふ。

十一月七日の夜は、麻機（まがは）の智徳院に一泊して、實査の結果を整理し了はつて、夜雨を耳にして寢に就いた。



靜岡縣安曇郡清澤村寺島
太吾上人俗形生祀像
明治四十年
昭和二十年二月十一日撮影



同上生祠祭典
昭和二十年二月十一日撮影